

乙女高原が好き！1103号

今年の夏も涼しい乙女高原で

第9期マルハナバチ調べ隊

またも雨に降られ・・・第2回(8月7日)

参加者:19名 スタッフ:芳賀さん,内藤さん,鈴木さん,原さん,村田さん,植原

朝,早めに乙女高原に着きました。マルハナバチたちが飛んでいるか心配だったのでその下見と,夏草がすごい勢いで伸びているので必要とあらば草刈りをしておこうと考えたからです。さっそく草原の中を歩いてみたら,マルハナバチはそこそこいます。これで今日の調べ隊は大丈夫だと思いました。一方,案の定,草はすごかったです。遊歩道の中にまで勢力を伸ばし,歩くのを邪魔しているところまでありました。このままでは小さい子にとって歩きにくいし,第一危ないので,時間のゆるす限り草刈りをしておきました。ログジに戻り,先日購入した2m50cm四方の自立タープやテーブル,ベンチを組み立てました。今日がお披露目です。そうして参加者を待っていると20名の参加者。

いよいよ調べ隊を始めました。まずは,いつもの通りの紙芝居。子どもの参加が多いと「ヘー」とか「ふーん」という合いの手が自然に入るので,とてもやりやすいです。いい気分マルハナバチ説明の紙芝居を終え,さて,いよいよ草原の中を歩こうかと思ったら,雨が降り出しました。いくらなんでもタイミングが悪すぎ・・・といったんは思いましたが,皆さん,今日の天気安心して雨具を持ってない方がほとんどだったので,ここで雨具を用意してから出かけることができたのでラッキーだったと考え直しました。雨が降り始めていましたが,さすがマルハナバチ。雨をものともせず働いている姿を参加者の皆さんにみせてくれました。ホント,乙女高原で一番のインタープリターはマルハナバチだと思います。1時間弱かけて歩いて,見られたマルハナバチはミヤママルハナバチ15頭,トラマルハナバチ14頭,オオマルハナバチ6頭でした。特にオオマルハナバチの6頭のうち3頭は花の上をめぐるしく歩き回って花粉を集める行動が見られました。まだまだ子育て真っ最中なのですね。ちなみに,花粉集めをしていた花はシシウドとシモツケソウでした。雨が強くなったので,雨が止むのを祈りながら,ログジの中でお昼を食べましたが,雨は止まず,しかたがないので,ログジの中でそのままとめをして終わりました。



キツネの子もいっしょに・・・第3回(9月11日)

参加者:17名 スタッフ:芳賀さん,内藤さん,鈴木さん,三枝さん,原さん,的場さん,植原



年3回行っているマルハナバチ調べ隊の最終回は地域の中学校の学園祭とかち合ってしまうことが多く、そんな時はお客さんが極端に少なくなってしまいます。今年はまさに山梨市の中学校も甲州市の中学校も軒並み学園祭がこの日だったので、大和自然学校のスタッフの皆さんや遠く東京の三鷹市や世田谷区、神奈



川の座間市,そして、なんと千葉の勝浦市からもきてくださった方がいて、とてもにぎやかでした。

いつもと同じく、ぼくは朝早く乙女に登り、まずは裏の倉庫の中にあるものを確認しました。秋の草刈りの準備です。そして、草原内を歩いて下見をしたのですが、マルハナバチが少ない！ ちょっと心配になりました。それでも、タープを張り、テーブルを出して準備をするうちに、多くの参加者がきてくださったので、マルハナバチ調べ隊をスタートさせました。

思わぬ来客がありました。キツネの子です。好奇心が強いのか、観光客からエサでももらった経験があるのか、ぼくらを恐れないどころか絶妙な距離感を持ちながら、つかず



離れず。誰かが近づいて写真でも撮ろうとするとスルスルッと離れていくのですが、かといって遠くに行ってしまうわけではなく、そのへんに座り込んで様子をうかがっています。ぼくがマルハナバチの紙芝居を始めたら、だんだん近づいてくるではありませんか。しかも至近距離まで。もうびっくりしました。

今日も午後から天気が崩れそうだったので、急いで紙芝居を済ませ、ラインセンス調査に出発しました。早朝にはマルハナバチは少ししか見られませんが、本番ではなんとか多くのマルハナバチを見ることができました。マルバダケブキに8頭のオオマルハナバチと7頭のミヤママルハナバチ、ノハラ

アザミには9頭のミヤママルハナバチ、そしてタムラソウに1頭のミヤママルハナバチです。以前のデータと比較分析していないのではっきりとは言えないのですが、マルハナバチが来ていた花はマルバダケブキとノハラアザミだけと言っていいくらいです(タムラソウには1頭だけです)。しかも、この時期に見られるはずのトラマルハナバチがいませんでした。なんだかとてもお寂しい状況になっているなあと思いました。

マルハナバチがこんな状況であり、しかも天気への心配もあったし、遠くからの参加者も多かったため、午後の待ち伏せ調査は今回もブナじいさんへの観察ハイクに変更しました。森の中で真っ赤なベニテングタケを見つけました。

調べ隊終了後、原さんと一緒に自動温度記録計の温度データをパソコンに取り込みました。今年の7月4日から9月11日までの約2カ月間で、最高気温は7月16日の25.5、最低気温は9月7日の9でした。乙女高原には夏日どころか26を超える日がなかったんですね。



自動温度記録計のデータを回収する原さん



またも雨に降られ・・・それでも作った60本



つい4日前まではすごい猛暑だったのに、3日前から急に肌寒い雨が続き、この日も朝から冷たい雨。それでも熱心な乙女高原ファンが15人集合。本当にありがたいことだと思います。また、ロープしばりの師匠・武井さんは今回も草刈り機を持ってきて、ロッジのまわりを自主的に草刈りしてくださいました。男性を中心に数人で杭の材料となる間伐材を取りに林道を下りました。そして、女性を中心に残りの数人で「乙女高原を歩こう」の参加者を待ちました。雨のためか参加者が集まらなかったため、自分たちだけで乙女高原を歩きました。乙女高原はもう秋の気配です。ハンゴンソウやキオン、マツムシソウやゴマナ、シオガマギクやシラヤマギクが咲き始めていました。ブナじいさんまで行ったら、ソバナも咲き始めていましたよ。お昼ちょっと前にロッジにもどってきました。

ちょうど材料調達組も戻ってきたところだったので、材料調達組の中で乙女高原を歩きたい人につきあって、ぼくはもう一度草原へ。今度は少し植物たちのしたたかな戦略を紹介しながら歩きました。

まずはシシウド。よくみると、同じ株なのに2種類の花が咲いています。シシウドの花は打ち上げ花火みたいな感じで、いくつかの「玉」から無数の火花が飛び散っているように見えます。その「玉」には雄花ばかりの玉と雌花ばかりの玉があります。そして、必ず真ん中が雌花の玉で両脇に雄花の玉があります。まるで雌花が雄花を従えているように見えます。しかも、花の咲く時期をずらし、自家受粉（近親相姦）を避けているのです。

自家受粉を避けるのはひとつの花に雄しべと雌しべがそろっている花でも同じです。ちょうどヤマホタルブクロの花が2つ咲いていて、しかも、ちょうど、ひとつの花の雌しべは棒のようにまっすぐで棒状のアイスキャンディーみたいで、もうひとつは雌しべの先が割れていました。棒状なときには雌しべはまだ未熟で、雄しべだけが熟していて、盛んに花粉を出します。花粉を出しても雌しべは未熟なので自家受粉は起きません。



花粉が底をつくころになると、雌しべの先が割れてきます。これは雌しべが成熟したサイン。花粉が来れば受粉します。他の花から運良く花粉が運ばれてくると、受粉成立です。その受粉に一役買っているのがマルハナバチで、前回のマルハナバチ調べ隊でもヤマホタルブクロにマルハナバチが来ているのを観察しています。今回は手鏡を使って、花の中の雄しべや雌しべの様子を観察してもらいました。

一通り草原の中を歩いてきて、みんなより遅くお弁当を食べました。お弁当を食べ終わり、さて、杭づくりに合流するかと思ったら、なんと60本もの杭づくりがほとんど終わったところでした。ゆっくりお昼を食べても十分間に合うだろうと計算していたのに、とんだ誤算です。仕方がないので、片づけを手伝い、その後、ロッジでお茶会。ぼくは働いてもないのにお茶を飲んだ悪い子です。午後4時までかかる予定が、2時すぎには終わってしまいました。午後からの参加者に草原の自然観察を希望するかお聞きしたところ、歩きたいということだったので、よろこんでご案内させていただきました。これで今日3回目の案内です。乙女の草原のヒミツをお話しながら歩きました。

「向こうにシラカバの林が見えますね？ 今から30年ほど前、あの林はここのような場所だったんですよ」と指さしました。そこは草原の遊歩道脇で、シラカバの赤ちゃんが生えています。シラカバは陽樹なので、光の少ない林の中では大きくなれません。ですから、シラカバ林の中にはシラカバの若木や赤ちゃんはいないのです。シラカバの若木や赤ちゃんは日当たりのいい草原の中にいます。では、シラカバの赤ちゃんが生えているこの場所は30年後にシラカバ林になるのか？ なりません。なぜなら、わたしたちが毎年草刈りをし、そのときに若木を刈ってしまっているからです。草原を保っているのは、草刈りという人間の営みだったのです。

遊歩道ツツジコースにはツツジ群落の中に3本ほど若々しいシラカバの木が生えています。じつは12年前まで、ここはシラカバの林になりそうな場所でした。なぜなら、スキー場として見放され、草刈りがされな

くなっていたからです。自然の法則にしたがって、シラカバたちは若い林をつくっていました。ところが、12年前にボランティアによる草刈りを初めて行ったときに、ここのシラカバ林を伐り、草原に戻したのです。でも、シラカバの木を3本モニュメントとして残し「ここには、この木の同級生のシラカバ林があったんですよ」と説明するようにしています。



そんなこんなで、今日は3回も乙女高原の案内ができたうれしい日でした。あ、大事なことを言い忘れていました。杭づくりに汗を流した皆さん、本当にご苦労さまでした。

今年も子どもたちに豊かな自然体験を 小学校の自然教室に協力

乙女高原案内人が牧丘の3小学校全部に

牧丘第三小学校の自然教室

一日の天候が不安定で、少々心配で始まった自然教室でした。乙女高原到着の時には薄日でよかったあ！と思ったのもつかの間、まさに、山の天気でした。案内していただく三人の方々には、とても楽しく、わかりやすく案内していただきました。雨音が葉に当たり大きくなる中、「ぶなじいさん」まで行けて、子どもたちも喜んでいました。もっと、色々案内していただきたかったです。今年の反省をふまえ、次年度の自然教室をまた考えていきます。今後よろしく願います。色々ありがとうございました（牧丘三小の担当の先生より）

日時	8月26日(金)
対象	3・4年生 11名
案内人	内藤さん、竹居さん、古屋光雄さん

当日は三角点までいったところで本格的な雨。先生からブナ爺さんまでは子どもたちが行きたいとの話をお聞きしたので行きました。雨足は同じでもブナ林に入ると不思議なくらい雨足が少なくなりました。ブナの葉の形状から葉柄から幹の方へ流れるためでしょうか？ 森のコースの往復のみ。草原コースはなしで1時間弱で切り上げました。昼食は学校で取るので早めに帰られました（案内人の内藤さんより）

牧丘第二小学校の自然教室

ファンクラブの方にとっても丁寧に動植物についてお話をしていただけ、充実した自然教室を行うことができました。天気にも恵まれ、とてもきれいに富士山が見え感動しました。いろいろとご配慮ありがとうございました。今後ともよろしく願います（牧丘二小の担当の先生より）

日時	8月30日(火)
対象	5年生 15名
案内人	竹居さん、菊地さん、小林さん

今日は、大変お疲れ様でした。いや、疲れはなく、楽しかったですね。天気も最高だったし、キツネにも出会えて…。牧二小の5年生も、きっと楽しく学んでくれたと思います。素直な子供ばかりで、なんだか嬉しくなりました。終わりの会でも、一人ひとりがしっかりとした意見・感想を言ってくれてとても感心しました。久しぶりの乙女高原だったのでいろいろと心配でしたが、竹居さん、菊地さんのフォローで無事終えることができました。ありがとうございました（案内人の小林さんより）

僕にとって久しぶりで2回目の案内人活動でした。素直な子供たちで助かりました。或いは皆山に来ると素直になってしまうのか、それとも元々素直なのか(たぶんこちらでしょうね)先に行く竹居さんのようにうまく説明できませんが、5人が楽しく遊んでもらえればいいかなと思い、トンボを捕まえたり、ススキの葉を飛ばしたり、双眼鏡で富士山やロッジなどを見せたり、虫眼鏡で花をアップで見せたりと小道具を使いました。虫眼鏡は火遊びに使われてしまいましたが。概ね楽しんでくれたようで満足しています（案内人の菊地さんより）

牧丘第一小学校の自然教室はこれからです。案内人の内藤さん、小林さん、菊地さんが5年生21名を案内する予定です。

シカ柵内外の植生調査 麻布大学・高槻研究室の調査に協力

7月31日 【ファンクラブからの調査協力】芳賀さん,宮川さん,井上さん,植原

6月の第1回調査で合計200本の草に番号札を付けて草の高さを測ったわけですが,今回は第1回調査で札を付けた植物を探して草の高さを測って記入するのですから,第1回よりずーっと困難な調査です。草むらの中,本当に200本の植物が見つけれられるでしょうか? 今回の調査員は高橋さんを中心に,助っ人として高槻研究室から海老原さんと小島さん,ファンクラブからは芳賀さん,宮川さん,井上さん,植原が参加しました。途中から雨も降り出すあいにくの天気の中,草むらをかき分けて札付きの植物を探しました。いくつかはすぐに見つかりましたが,いくつかがなかなか見つかりません。何度も何度も複数の人間が行ったり来たりするので,踏みつけがやがて道のようになっていました。植物たちに悪影響を与えているのではないか? もしかしたら,札付き植物を踏んでしまっていないか? 心配になるほどでした。



今回,ロッジの鍵を借りていたので,途中から大雨になりましたが,ロッジの中で安心してお昼を食べることができました。助かりました。

8月26日 【ファンクラブからの調査協力】菊地さん

午前中柵の外側の草丈測定の手伝いをしました。昼頃に雨が降ってきたので一旦切り上げました。それぞれ車中で昼食を済ませて止むのをまっていたのですが,高橋さんが何時止むか分からないので,これで帰っていただいていた方がいいですよと言うので甘えました。その後見ていなかった草原の上の方を一回りして戻ると,鹿の糞を採取するところですよと言うので少し手伝って帰りました。柵の内外に種類別に印を付ける方も大変だったでしょうね。地元のテレビ局なのかアサギマダラや,たった一本だけのヤナギランを撮影していました。(案内人の菊地さんより)

乙女高原自然観察会2011 by 乙女高原ファンクラブ

シカってどんな動物だろう



「シカが多くなりすぎて,草花を食べちゃってこまる」という話,最近よく聞きますよね。でも,聞いたことはあっても,シカに食べられて困っている木や草の様子を見たことはありませんか? シカがどんな生活をしているのか見たことはありませんか? 野生動物であるシカを直接観察することはむずかしいですが,生活の痕跡や乙女高原の自然におよぼしている影響を観察します。

10/23(日)午前10時

集合場所 乙女高原グリーンロッジ前

小雨決行。12時30分終了予定。

定員 どなたでも30人 先着順。

参加費 無料

ファンクラブの予算で行事保険に加入します。

持ち物 防寒着,雨具,水筒

(ルーペなど観察用具,筆記用具)

(べんとう持参をお勧めします)



八島が原湿原全体を囲む，

レポート:植原 彰 2011.8.4.

全長4 kmに及ぶシカ柵を見てきました



長野県霧ヶ峰高原の一角にある八島ヶ原湿原に行ってきました。6月に南アルプス市で開催された櫛形山フォーラムのゲスト、静岡大学の増澤武弘先生から「八島では湿原全体を囲う大きなシカ柵を設置したよ」というお話をお聞きして、ぜひ、この目で確かめたいと思ったからです。まずは県立自然保護センターに寄って情報収集です。ちょうど大学生のアルバイト諸君が打ち合わせの最中でした。数人がそろいのベストを着て、今日のスケジュールの確認等をしていました。乙女高原にもこんな人材がいたらいいなあと思いました。打ち合わせが終わるまで展示を見て時間を

つぶし(とはいえ、展示自体もとってもおもしろかったですよ)、カウンターでシカ柵についてお話を聞きました。その後、八島ヶ原湿原の駐車場まで行き、車を置いて、さて1周歩いて自然観察しながらシカ柵の様子も見ようかと歩き始めたら、さっそくシカ柵です。道路の脇に道路と平行して張ってありました。高さは2メートルくらい。柵の材質は針金です。格子になっていて、ひとつの格子が10センチ四方くらいのほぼ正方形でした。

シカ柵の観察をしていたら、作業服を来た数人の方がシカ柵の点検(?)を始められたので、声をかけて、話を聞かせていただきました。この方は長野県諏訪地方事務所環境課の長田課長さんで、作業中にも関わらず、親切にいろいろと教えてくださいました。

- ・今日は柵の杭に、いくつかおきに番号札を付けている。今後、たとえば修理が必要な箇所がでてきたとき、杭の番号を控えてもらえば、場所の特定がしやすくなるから。
- ・この杭は霧ヶ峰自然環境保全協議会で話し合っけて設置を決めた。
- ・資材の購入費用は約1,000万円。このお金は国から。林野庁のモデル事業として。というのも湿原の中には国有林もあるから。
- ・シカ柵を設置することについては反対意見もあったが、緊急避難的に設置しよう、なるべく遊歩道から見えない場所に設置しようということで、合意された。
- ・2010年8月から10月にかけて、ボランティアも含め約300人で半分を、今年になって残りの半分をやはり約300人で設置。
- ・シカ柵の総延長は4キロ。
- ・シカ柵は設置後の管理が重要で、日常的な管理はボランティアの自然保護指導員。8月には学生アルバイト。9月以降は行政の職員と考えている。週に2/3回はパトロールしたい。
- ・シカ柵のウィークポイントを探し出してしまうので、特にはじめのうちは巡回が大切だと思う。
- ・シカ柵の効果の検証は研究者が行う手はずになっている。

とのことでした。そこまで期待して行ったわけではないのですが、自然保護センターで話を聞くことができたし、県の課長さんにインタビューすることもできたし、その後もビジターセンターのインタープリターである田口さんともお話することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

もちろん湿原も一周してきて、じっくり自然観察しましたよ。やはり軸足は乙女高原なので、どうしても乙女高原と比べてしまいます。シモツケソウが乙女と違って真っ赤。アカバナシモツケソウという亜種だそうです。乙女高原のフウロソウはタチフウロ一種だけですが、八島にはアサマフウロ、ハクサンフウロ、タチフウロが咲いていました。ゲンナイツウロもあるそうです。乙女の湿地はバイケイソウですが、八島はコバイケイソウでした。などなど。短いけれど、とても密度の濃い時間を過ごして帰ってきました。



今年も勤労感謝の日(11/23)は...

乙女高原の草原を守る！草刈りボランティア

今年でボランティアによる草刈りは12回目になります。秋の終わりに毎年大勢の乙女高原ファンの皆さんが集まり、草を刈り、運び出してくださるおかげで、温暖化による影響や増えたシカの食害はあるものの、乙女高原の美しい景観や豊かな生物多様性が「持続可能」になっています。ぜひ今年も乙女高原においでください。

詳しくは同封のちらしを見ていただきたいと思います。ちらしには載っていない大切な情報が2つあります。それは**キッズボランティア**と**藁撒き工法**です。

今年も去年に引き続いて、キッズボランティアとして「ブナ爺さんの根元に落ち葉のふとんをかけてあげる」という活動に取り組みます。子どもたちの参加は自由です。このプログラムに参加してもいいし、大人と一緒に草を刈ってもいいこととします。また、大人がキッズに参加してもオッケーです。また、今回は刈り草を運び出して荒野を乙女高原のような草原にしておこうというプロジェクトにも取り組みます(コラム参照)。これら大きなイベントを成功させるために、多くの「縁の下の力持ち=スタッフ」が必要です。スタッフとして運営に協力してもいいよという方は、ぜひ、ファンクラブ事務局までご連絡ください。

第12回 乙女高原の草原を守る！

11月23日(水・祝) 少雨決行
荒天の場合、27日(日)

午前9:30~午後2:00

乙女高原グリーンロッジ集合

持ち物 弁当、飲物、軍手、雨具、マイお
わん、マイ箸、お持ちの方はかま・な
た・刈り払い機などの道具。

参加費 無料(保険には主催者で加入)

申込み(なるべく11月18日まで)等は

山梨市 観光課 0553-22-4111(代)

【今回の「草刈りボランティア」で取り組む『藁撒き工法』について】

2000年より始まった草刈りボランティアでは、急斜面で持ち出すのが困難である場所以外は、刈った草を持ち出している。刈った草は、遊歩道の土壌流失を防ぐために、一部遊歩道に敷きいれているが、それ以外は手塚小屋の跡地に運び込んでいた。ある程度の草の量であれば、跡地に草原植物群落を再生させるために有効であったが、今ではその限度を越え、夏になっても枯れ草がうずたかく積もったままになってしまった。刈り取った草の搬送先を探すことは草刈りボランティアを持続させる上で急務である。

一方、乙女高原フォーラムでゲストとしてお招きした星野義延氏(東京農工大)より「藁撒き工法」という自然再生技術について情報提供を受けた。これは「種子を実らせた時期に刈り取った草を別の場所に撒き、敷きつめることによって種子を供給し、種子からの発芽によって植物の侵入を促す」方法であり、乙女高原の草刈りに応用できないかというものだった。

乙女高原周辺にあつて、乙女高原の種子を供給したい場所として、琴川ダムに残土処理場がある。ここは焼山峠から小橋山林道に0.5kmほど入ったところにあり、2ha以上はありそうな広大な造成地である。ヤマハンノキやシラカバを植えた形跡はあるが、どれも1mメートルほどしか育っておらず、草本植物も所々にしか生えていない荒れ地である。ここに運ばれた残土はダム建設現場からの残土および原石山から発生した岩屑を中心とした残土で、土壌中の栄養分がきわめて乏しいのだから当然である。ここに乙女高原の刈り草を搬入すれば、この荒れ地を乙女高原のような草原にすることができるだろう。草原の創出ができれば、森林への遷移もスムーズに進むと推測できる。しかも、都合のいいことにこの残土置き場は周囲をフェンスで囲まれ、乙女高原等で問題になっているシカの食害から植物を守ることができる。

ここまでどうやって草を運搬するかが問題であるが、これについては毎年多くの社員が草刈りに参加してくださる株式会社田丸さんよりパッカー車提供の提案をいただいている。たくさんのごみを積み込めるパッカー車なら一度に多くの草を運べるし、途中で落とすこともなく、軽トラ等に比べ格段に効率的だろう。

また、搬入後、草花がどのように成長して草原を形成していくのか、本当に刈り草の搬入が草原創出に有効であったかを検証する必要がある。この件については星野氏より調査研究したいとお話をいただいております。すでに予備調査の計画を立てられている。

山梨市社会福祉協議会より「平成22年度共同募金配分金」を交付していただきました

ファンクラブでは赤い羽根ボランティア市民活動助成金の交付を受けるため自然解説活動への助成を申請し、受理されました。助成金として7万円をいただき、観察会の障害保険掛け金や双眼鏡の購入費に充てました。

乙女高原ファンクラブの事務局だよ

日本山岳遺産基金の助成金を活用して自立タープ、キャンピングテーブル、ベンチを購入しました。暑い日差しを避けられるし、天気急変にも対応できるようになりました。お弁当を食べるにもちょうどいいです(右写真)。

乙女高原フィールドガイドの第3弾となる「乙女高原のスマイル・ウォッチング」を来春出版するため、8月に2回編集会議を行いました。プロジェクトリーダーは乙女高原案内人の依田さん、デザインは同じく杉田さんです。どんなフィールドガイドができるか楽しみにしてください。



乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』(A4判186ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1000円、送料は一冊につき80円。欲しい方は郵便振込で一冊につき1080円分を送金してください。

マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング』(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』(A3判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第1号。春から秋にかけて咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。今年リニューアルしました。欲しい方は事務局までご連絡ください。

乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会员とサポーター会員の2種類があります。会報(ニューズレター)は年4回発行予定です。年に一度は全会員に送っていますが、この号も含め、あとの3号は普通会员にしか送っていません。乙女高原での活動を多くの方に知ってもらいたいので、できるだけ普通会员での入会をお勧めください。また、現時点でサポーター会員の方も普通会员への移行をお勧めします。会員が増えることで、乙女高原を守るファンクラブの発言力も強くなります。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」と、入会のご意志を事務局まで届けてくだされば、いつでも、だれでも会員になれます。ファックス、メール、手紙が確実です。
- ・入会金も年会費もありません。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニューズレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。
- ・そして・・・、乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。

乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3
TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp
会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。
WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ